

総合殺菌剤

農林水産省登録 第22632号

ホクサン

フロンサイド[®] 粉剤



広く守り、強く攻める!

—すべては実りのために。—

フロンサイドは石原産業(株)の登録商標

根こぶ病をはじめ、広範囲の病害から大切な作物を守ります。

有効成分フルアジナムの特長

●根こぶ病に優れた効果

土壌中における根こぶ病のあらゆる感染ステージ(休眠孢子、遊走子)に殺菌的な作用を発揮します。

●根こぶ病以外の土壌病害にも効果を発揮

病原菌の発芽や菌糸伸長を阻害することで、子のう菌類、担子菌類、卵菌類*等多岐にわたる土壌病害にも効果を発揮します。 *フロンサイドSCのみ

●優れた残効性と耐雨性

降雨の影響を受けにくく、長期間に渡り高い予防効果を発揮します。

新たな知見

●おとり植物との併用も可能

おとり植物の菌密度低減効果に影響はなく、より効果的に土壌中の根こぶ病菌密度の低減が期待できます。

使用上のポイント

- 砕土および土壌混和はていねいに行ってください。混和深度は10~15cmが適当です。
- 降雨直後などの湿潤な土壌では、混和が不十分となりますので使用をさけてください。
- 基準量を越える薬量の処理や、植穴処理は薬害(初期生育抑制)が生じますので絶対にさけてください。
- 定植、は種は薬剤処理後できるだけ早く行ってください。(薬剤処理後7日以内が目安)
- 根こぶ病の発生が多い圃場では耕種の防除(石灰類、おとり植物との併用)との組み合わせをお勧めします。

適用病害と使用方法

作物名	適用病害名	10アール当り 使用量	使用時期	本剤の 使用回数	使用方法	フルアジナムを含む 農業の総使用回数
ばれいしょ	そうか病 粉状そうか病	30~40kg	植付前	1回	全面土壌混和	6回以内 (種いも浸漬は1回以内、 植付前の土壌混和及び植付時の 植溝散布は合計1回以内、 植付後の散布は4回以内)
かんしょ	基腐病	40kg				3回以内 (植付前は1回以内、 植付後は2回以内)
キャベツ	根こぶ病	15~20kg 30~40kg		2回以内 (苗床では1回以内、 本圃では1回以内)	作条土壌混和	3回以内 (苗床では1回以内、 本圃での土壌混和は1回以内、 土壌散布は1回以内)
	苗立枯病 (リゾクトニア菌) 菌核病	40kg			全面土壌混和	
カリフラワー ブロッコリー		15~20kg			作条土壌混和	
メキャベツ かぶ		30~40kg	は種又は 定植前		全面土壌混和	
非結球あぶらな科葉菜類 (ケール、こまつな、みずな、 のざわな、なばな類を除く)	根こぶ病					
なばな類		15~20kg 30~40kg 40kg		1回	作条土壌混和 全面土壌混和 作条散布	1回
こまつな	根こぶ病 立枯病(リゾクトニア菌)	30kg	は種前		全面土壌混和	
みずな						
のざわな	根こぶ病	30~40kg 20kg 15~20kg			作条土壌混和	
はくさい	根こぶ病 黄化病	30~40kg	は種又は 定植前		全面土壌混和	2回以内 (土壌混和は1回以内、 土壌散布は1回以内)
レタス 非結球レタス	すそ枯病 ビッグベイン病	30kg				
ねぎ	白絹病 小菌核腐敗病	15kg	土寄せ時 但し、収穫21日前まで	2回以内	株元散布	2回以内
たまねぎ	黒腐菌核病 紅色根腐病	40kg	定植前		全面土壌混和	7回以内 (全面土壌混和は1回以内、 苗根部浸漬は1回以内、 散布は5回以内)
にら	白絹病	20kg	収穫30日前まで		株元散布	1回
てんさい	叢根病	育苗培土 1kg当り 5~10g	は種前	1回	土壌混和	5回以内 (は種前の土壌混和及び 苗床灌水は合計1回以内、 株元散布及び散布は合計4回以内)
らっかせい	白絹病	20kg	収穫45日前まで		株元散布	1回
だいこん	亀裂褐変症 (リゾクトニア菌)	30~40kg	は種前			
チューリップ	葉腐病 条斑病 微斑モザイク病	40kg	植付前		全面土壌混和	7回以内
ゆり	茎腐症 (リゾプス菌による)		定植前			3回以内

使用上の注意事項(一部抜粋)

- 苗床で使用し、その苗を採苗、定植する場合には、必ず手袋を着用して作業を行い、直接苗に触れないように注意してください。
 - 根こぶ病を対象に本剤を多量に使用すると、初期生育が抑制される場合があるので、適用薬量の範囲で使用してください。
 - はくさいの黄化病、ばれいしょのそうか病、粉状そうか病、キャベツの苗立枯病(リゾクトニア菌)、菌核病、レタスのビッグベイン病に対する本剤の全面土壌混和および、ねぎの小菌核腐敗病に対する土寄せ時株元散布は、多発生条件では効果が劣る場合があるので注意してください。
 - レタスの茎葉に本剤が多量にかかるると薬害を生じるおそれがあるので、付近にある場合は注意して散布してください。
 - てんさいに使用する場合、誤って多量に処理すると初期生育が抑制されるおそれがあるので適用薬量の範囲を厳守してください。
 - みずかけなに使用する場合、水掛け開始は薬剤処理後2ヶ月以降を厳守してください。
 - 適用作物群に属する作物または、その新品種に本剤を初めて使用する場合は、使用者の責任において事前に薬害の有無を十分確認してから使用してください。なお、病害虫防除所等関係機関の指導を受けてください。
 - 本剤の使用に当たっては、使用量、使用時期、使用方法などを誤らないように注意し、特に初めて使用する場合は病害虫防除所等関係機関の指導を受けるようにしてください。
 - 本剤は眼に対して刺激性があるので、眼に入らないように注意してください。眼に入った場合には直ちに水洗し、眼科医の手当を受けてください。
 - 使用の際は農業用マスク、手袋、長ズボン・長袖の作業衣などを着用してください。また、作業後は直ちに手足、顔などを石けんでよく洗い、洗眼・うがいをするとともに衣服を交換してください。
 - 作業時に着用していた衣服等は他のものとは分けて洗濯してください。
 - かぶれやすい体質の人は取扱いに十分注意してください。
 - 蚕に対して影響があるので、周辺の桑葉にかからないようにしてください。
- 魚毒性等:**
水産動植物(魚類)に影響を及ぼすおそれがあるので、河川、養殖池等に飛散、流入しないよう注意して使用してください。

●使用前にラベルをよく読んでください。●ラベルの記載以外には使用しないでください。●本剤は小児の手の届く所には置かないでください。※空袋は圃場などに放置せず適切に処理してください。

取り扱い

本印刷物は、2024年9月時点での知見に基づいて作成しています。